「世界津波の日」高校生サミット　発表要旨

国名：日本　　県名：宮城県　　学校名：宮城県気仙沼高等学校

メンバー名：安野紗菜（２年），佐藤琴海（１年）

発表タイトル：津波が来たときの人々の行動と心理状態について

事前調査の内容と結果

１．調査内容

①東日本大震災による大津波警報の発令を受け、どのようなことを思ったのか生徒・教職員・保護者への聞き取り調査を実施。

②過去の非常事態における人々の心理状態を関係図書やインターネットを用いて調査。

２．調査結果

大津波警報発令時、今考えれば危険な意識や行動が多く見られた。

①大津波を見てみたいと思った。

②「ここまで津波は来ない。」という思い込み。

③周りが逃げないので、自分も逃げなかった。

④津波が来るまで時間があるので、大切なものを取りに家に戻ろうと思った。

⑤家族が心配で家に戻ろうとした。または、戻った。

⑥早く逃げるには車を使用する方が良いと思った。

⑦これまでの避難訓練で利用している、又は、指示されている避難所に逃げた。

問題点・課題点の考察

過去にも津波に襲われ、「地震の後には津波が来る」という意識が強いはずの地域においても上記２．①～⑦のような行動が多く見られた。これは「過去の教訓」に学ばなかったことが原因と言える。「過去の教訓」活かすため課題を改善することが重要である。

課題点１　実体験を伴わなければ真剣に考えない状況の改善

このことから、今後、津波による被害が想定されている地域の人々も、同様な意識を持っている可能性が高い。東日本大震災以降、今回のような「津波がくるまでの人々の行動」は各方面で研究されており、被災地における反省を真剣に受け止めてもらうための情報発信力が必要である。

課題点２　過去の事例に学ぶ。メディア・情報機器に頼らない避難意識の定着

１９９３年の北海道南西沖地震による津波で大きな被害が出た奥尻町では、津波警報が発令される前に第１波が到着している。この事例は、他からの情報を待たずとも自ら状況を判断し、すぐに避難行動に移ることの重要性を教えてくれている。現代の情報システムが機能しない状況下を想定した訓練やワークショップが必要である。

アクションプラン

津波は人的被害を０(ゼロ)にできる自然災害。というフレーズの啓発活動

人的被害を０（ゼロ）にするためには専門的知識も高度なテクノロジーも必要ない。「地震の後には津波が来る」という意識を持ち、防災弱者対策を整備し、各々がいち早く避難することで人的被害をなくすことはできる。被災地の事例をもとに避難行動を妨げる心理的バイアスが働くことや各地域で予想される「過去の災害事例」について理解してもらいながら、津波死０(ゼロ)というフレーズの啓発活動を行う。